令和8年11月20日
指定鯨類科学法人
一般財団法人 日本鯨類研究所

日本鯨類研究所の調査研究は南極海シロナガスクジラの新たな資源評価に貢献

日本の南極海鯨類資源調査および国際協力を通じて得られた長期的な科学データセットは、当初のデータ収集期間を大きく超えて、現在もその価値を発揮し続けています。

学術誌「*Endangered Species Research*」に最近掲載された、南極海のシロナガスクジラ（*Balaenoptera musculus intermedia*）の個体数に関する新たな科学的推定値は、日本の南極海鯨類捕獲調査計画（JARPA およびJARPA II）や、国際捕鯨委員会（IWC）の国際鯨類調査10カ年計画および南大洋鯨類・生態系調査計画（IWC/IDCR-SOWER）を含む、大規模かつ体系的な長期研究・モニタリング計画が果たしてきた重要な貢献を浮き彫りにしています。

「*絶滅危惧種指定の南極海シロナガスクジラが個体数は増加傾向にあるものの、捕鯨開始前の水準には依然遠く及ばず*」と題された本研究（※）は、40年以上ぶりとなる南極海シロナガスクジラの初の包括的な個体群評価を提供するものです。過去の捕鯨記録、調査専門船による目視調査、および写真による個体識別データを統合することにより、研究者らは南極海のシロナガスクジラの個体数が1973年の約418頭から2024年には約4,018頭に増加したと推定しました。

これは商業捕鯨の停止後に個体群が回復していることを示す明るい兆候ですが、この種の現在の推定個体数は、捕鯨開始前の個体数のわずか約1.9%にとどまっています。

重要な点として、この資源評価では、IWC/IDCR-SOWERによる南極海全域の調査と、日本鯨類研究所が実施したJARPA およびJARPA II調査計画の双方を通じて収集された資源量情報が活用されています。1978/1979年から2009/2010年にかけてIWC/IDCR-SOWER計画の下で実施された国際南極海鯨類調査は、南極海全域における貴重な資源量推定値を提供しました。一方、JARPA調査は、1989/1990年から2009/2010年にかけて、IWC第IV区および第V区の南極海水域で繰り返し実施された観測データを提供しました。

これらの日本の調査データは、南極海のシロナガスクジラの資源量の経時的な変化に関する、重要かつ独立した情報源となりました。JARPA による推定値は南極海の一部のみを対象としていたため、南極海全域の個体群を代表するには補正が必要でしたが、個体群の動向に関する追加情報を提供することで、評価の信頼性を高めることに寄与しました。

こうした長期データセットの重要性は、個々のデータソースを除外した場合に個体数推定値がどのように変化するかを検証した、本研究の感度分析によっても示されています。その結果、JARPA および SOWER のデータセットは、統合的な個体群評価に相互補完的な情報を提供し、研究者が数十年にわたる個体群の回復状況を評価するうえで役立ったことが示されました。

日本鯨類研究所は、本研究を、体系的な南極海鯨類資源調査と国際協力が持つ、長期にわたる科学的価値を示す重要な事例と考えています。長期かつ大規模な目視観測、一貫した調査手法、そして信頼性の高い科学データの蓄積は、鯨類資源の状態を把握するうえで不可欠であり、特に著しく減少した状態にある個体群については、なおさら重要です。

本研究の結果は、鯨類資源の科学的モニタリングを継続する必要性も改めて示しています。回復傾向は明るい兆候であるものの、南極海のシロナガスクジラは依然として絶滅の危機に瀕しており、ナンキョクオキアミの利用可能量や気候変動を含む海洋生態系の変化、さらにはその他の人間活動に関連する将来的な圧力に直面する可能性があります。

日本鯨類研究所は、目視専門調査、バイオプシー採取、写真による個体識別、受動的音響モニタリングなどの非致死的手法を含む、堅実な科学的調査の継続が、今後の個体群動向を評価し、南極海のシロナガスクジラの回復に影響を及ぼす生態学的要因への理解を深めるうえで不可欠であると認識しています。このため、当研究所は、現在継続中の JASS-A（南極海鯨類資源調査）計画を引き続き実施するとともに、希少種を含む鯨類資源に関する研究を推進していきます。また、こうした科学的活動への国際的な研究者の参加を歓迎します。

日本鯨類研究所は、今回の重要な評価において、IDCR/SOWER、JARPA および JARPA II の各調査計画が果たした科学的貢献が認められたことを評価するとともに、南極海の鯨類資源の保全と管理を支えるうえで、長期的な科学研究が引き続き重要な価値を持つことを強調します。

※ Rand, Z. E., Olson, P. A., Kinzey, D., Double, M. C., Miller, B. S. Matsuoka, K., Findlay, K. and Branch, T. A. 2026. Critically Endangered Antarctic blue whales are increasing but still far from pre-whaling levels. *Endang. Species Res*. 61: esr01557. https://www.int-res.com/articles/esr2026/61/esr01557.pdf.

以上